

北海道デイサービスセンター協議会
平成27年度認知症介護実践研修(実践者研修)
カリキュラム

※受講者は事前にカリキュラムを確認してください。

【講義・演習カリキュラム2, 015分(33時間35分)】

1日目/時間	教科名	目的	内容
9:20～ 9:30 (10分)	オリエンテーション		
9:30～ 9:45 (15分)	認知症介護実践研修 のねらい	研修の目的と目標を示し、それに沿って研修カリキュラムがどのように組み立てられているかを理解し、受講の方向性を明確にする。加えて、研修の機会を情報交換・ネットワーク作りの場として活用することをうながす。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の目的、目標の明示。・目的・目標とカリキュラムの関係の明示。 ・研修の機会を主体的、積極的に自己学習の場として活用する意義の明示。
9:45～12:45 (180分)	新しい認知症介護の理念の構築	認知症の人の能力に応じて自立した生活を保証するために求められる介護理念を、グループワークを通して検討し、自分の言葉で構築することを目指す。その際に抽象的にならず具体的な検討することを促す。自ら構築した理念が、権利を擁護するための視点をもって再構築されたか、また実際に活用するための理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・先進的介護サービス事業の理念の提示。(2つ以上の複数であること) ・演習を通して他研修生の意見を聴き、自分の介護を振り返る。 ・認知症の人がその人らしく生きるという権利が擁護される介護理念の再構築。 ・理念を実際にどのように活用するか。
12:45～13:45	昼 休 み		
13:45～15:15 (90分)	医学的理解	認知症という病気と症状の説明で終わるのではなく、医学的理解が認知症介護を行うにあたって必要とされる理由が理解される。医学面から本人の生活に及ぼす影響を示し、生活障害としての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の原因疾患とそれに伴う障害等の内容及びそれらが個人の生活活動に及ぼす影響。・自立支援の中で医学の果たす役割の提示。・疾患別認知症の特徴。
15:15～16:15 (60分)	心理的理解	認知症によって高齢者の心理にどのような変化が生じ、それが生活面にどのような影響を与えるかを学び、高齢者の心理面の理解を深める。高齢者への周囲の不適切な対応・不適切な環境が及ぼす心理面の影響の内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢や老化による心理面の影響と対応。・認知症が及ぼす心理面の影響と対応。・個人活動に及ぼす心理面の影響と対応。・環境が及ぼす心理面の影響と対応。・自立支援の中で心理的理解が果たす役割。・中核症状への対応のあり方。
16:25～18:25 (120分)	生活の質の保障とリスクマネジメント	認知症を抱えたことで生活上の困難は本人の生活の質の低下のみならず、事故の危険性を高めることを知る。事故に対する危機管理のみにとどまらず、生活の質を継続して保証するためのリスクマネジメントのあり方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症が及ぼす事故の危険性の内容。 ・リスクマネジメントの目的と内容。 ・個人の生活の質の保障の重要性。 ・家族の了解を含めたリスクマネジメントの方法。 ・安全管理と人権擁護の関係の理解。
18:35～19:05 (30分)	研修の自己課題の設定	「ねらい」を元に、研修中の個人の課題設定を行うことで、主体的に研修に参加する態度をうながす。なお、課題は、実習まで含むものとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修中の課題の設定。 ・課題を文章として示す。
19:05～19:20 (15分)	一日のレビュー(振り返り)		

2日目/時間	教科名	目的	内容
9:00～12:00 (180分)	生活障害としての認知症の理解 (生活の捉え方)	「医学的理解」「心理的理解」の講義を踏まえ、自立した生活を送ることの意味と、それを支援することの重要性を講義・演習を通して理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 生活障害としての認知症の理解。 個人と認知症との関係の理解。 生活支援の理解。 認知症状と疾病の関係。 重度認知症ケアと終末期ケアを知る。
12:00～13:00	昼 休 み		
13:00～15:20 (140分)	認知症高齢者の理解に基づいた生活のアセスメントと支援	認知症の人が、自分の能力に応じて自立した生活を送るための支援として必要な、認知症介護のアセスメントと生活支援の方法の基本を理解すること。	<ul style="list-style-type: none"> 尊厳ある生活を導き出すアセスメントとケアプランの基本的な考え方の理解。 認知症の特性をアセスメントする。 心身の総合的なアセスメントをする。 馴染みの生活の継続と自立支援に向けたアセスメントをする。
15:30～18:00 (150分)	事例演習	上記の講義をうけ、事例(これはモデル事例もしくは研修生からの提出事例を使用する)を用いて、個人への支援にたったアセスメントと生活支援の方法の基本を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 事例演習による具体的な考え方の体験的理解。 援助方法の展開と体験的理解。
18:00～19:15 (75分)	一日のレビュー(振り返り)と交流会	1日の振り返りと研修生の情報交換、ネットワークづくりの場としての交流会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 交流会によるネットワークづくり メンバーが研修の感想や情報交換

3日目/時間	教科名	目的	内容
9:00～10:30 (90分)	認知症の人とのコミュニケーション(コミュニケーションの本質と方法)	認知症の人の対人関係のとり方を理解し、援助者に求められる位置づけとあり方の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人とコミュニケーションをとる意義と目的。 認知症の人とのコミュニケーション技法。(軽度・中等度・重度の人へのコミュニケーション技法)・事例を用いた具体的な援助展開の方法。
10:40～12:10 (90分)	援助関係を築く演習	「認知症の人とのコミュニケーション」の講義を踏まえた演習を通して、実践で活用できる技術を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 事例を用いた具体的な援助展開の方法の体験的理解。
12:10～13:10	昼 休 み		
13:10～14:00 (50分)	若年性認知症の人の支援	若年性認知症の人の疾病を理解し、社会的制度等の活用と、生活支援の方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 疾患に対する理解。 家族支援。 エンパワメントを用いて本人とともに家族を支える。 社会資源の活用
14:00～15:00 (60分)	家族の理解と支援 (家族の理解・高齢者との関係の理解)	家族介護者のみではなく、他の家族も含めた家族の理解と、高齢者と家族の関係を通して、認知症介護から生じる家族内の様々な問題・課題を理解し、家族への支援の重要性の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者と家族の関係。 認知症が家族内に与える影響。 家族支援の方法と効用。 家族とのコミュニケーション。 家族への情報提供のあり方。
15:10～16:40 (90分)	人的環境と住居環境を考える	高齢者の取り巻く人間関係としての人的環境と住まい(自宅、GH、施設など)を中心とした住環境の理解を深め、二つの環境の持つ意味を考え、援助者としての環境に働きかける重要性を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係としての人的環境の内容と生活に与える影響。 住まいとしての住居環境の内容と生活に与える影響。
16:50～18:20 (90分)	生活環境を考える (生活環境を考える演習)	「人的環境と住環境を考える」の講義・演習を踏まえ、事例を通して具体的な介護における環境のあり方の理解を深め、環境へのかかわり方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 事例を用いた体験的理解・環境への関わり方の具体的な方法を検討・家族の位置づけは、家族支援の視点を含め検討。 認知症の方々の共同生活を営む上での心理的理解。
18:20～19:10 (50分)	一日のレビュー (振り返り)		

4日目/時間	教科名	目的	内容
9:00～10:30 (90分)	地域社会環境を考える (生活環境を考える演習)	人的環境と住居環境を取り巻く、地域社会、社会制度などの地域社会環境の理解を深め、その環境の持つ意味を考え、援助者として環境に働きかけることの重要性を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会環境の内容。 ・生活に与える影響。 ・地域社会環境との関係の取り方とコミュニケーション技法。 ・他の援助者とのコミュニケーション。
10:40～12:10 (90分)	地域社会の中での生活支援 (生活支援の方法)	「人的環境、住居環境」「生活環境」「地域社会環境」のまとめとして、認知症の人が様々な人的・物的・社会的環境の中で生活していくことを、どのように支援していくべきかを理解し、事例演習を通してその方法を考える。 また、「認知症を知る1年」「認知症を知り地域をつくる10ヵ年」について専門職として理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な生活支援のあり方。 ・その援助方法・環境調整、地域資源の活用の重要性。 ・事例を用いた体験的理解と具体的な方法の検討。 ・家族の位置付けは、家族支援の視点も含めること。 ・地域づくり。 (認知症サポーターの育成・運営推進会議)
12:10～13:10	昼 休 み		
13:10～15:10 (120分)	認知症の人の権利擁護(意思決定支援と権利擁護)	認知症により、その人がその人らしく生きるという個人の自由や意思決定が、本来どのように保障されるべきかを理解する。その阻害の例として、虐待、拘束等の内容を理解し、人権擁護の具体的な方法の理解を深め、権利を擁護し尊厳を支える実践者としての姿勢を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人の歴史(痴呆観)・認知症の人の権利とは何かを理解する。 ・個人の人権の重要性。 ・権利を擁護する制度等理解。 ・擁護する具体的内容の理解。 ・虐待・拘束の定義と具体的内容。 ・権利を擁護する実践者としての基本的姿勢。 ・事例を示し、様々な社会資源を用いて権利を擁護する演習を行う。
15:20～17:00 (100分)	実習課題設定	本研修の目的に基づき、「研修の自己課題」の内容と、講義演習の受講を踏まえ、研修成果を実践で活用できる知識・技術にするための実習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設の見学実習、職場実習の目標設定に際しての、実習展開例(別の添付)を提示する。 ・自己の研修課題と実習目標の設定。 ・自己の研修課題と研修の成果に基づいた実習目標の設定。
17:00～17:40 (40分)	一日及び4日間のレビュー(振り返り)	この日の振り返りと共に4日間の講義・演習の振り返りを行う。	

【実習カリキュラム】

時間	教科名	目的	内容
1日	他施設実習 (外部実習)	他の介護保険事業所への1日の見学実習を通して、「認知症介護の本質」を改めて考え直し、理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の研修課題と研修の成果に基づいた実習目標に沿った実習の展開。
4週間	職場実習	職場での4週間の実習を通して、自己の設定した課題の達成を目指し、その成果を得る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の実習課題に沿った実習の展開。
(1日) 10:00～16:00	実習結果報告とまとめ	実習が設定した課題に沿って実施できたかを各自で振り返り、報告し、実習課題がどの程度達成できたかを評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習課題に沿った実習展開を整理し報告する。 ・研修全体の自己評価の実施。 ・他研修生の自己評価の確認。

北海道デイサービスセンター協議会
平成27年度認知症対応型サービス事業管理者研修
カリキュラム

※受講者は事前にカリキュラムを確認してください。

【講義・演習カリキュラム 620分(10時間20分)】

1日目/時間	教科名	目的	内容
16:30～16:40	オリエンテーション	管理者研修の目的は、地域密着型サービス事業所の管理者として、統括的な管理・運営と支援のあり方について学び、実践ができるようになること。研修の全体スケジュールを説明し、加えて、研修の機会を主体的、積極的に情報交換・ネットワーク作りの場として活用することの意義を認識する。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の目的、目標の明示。 ・自己課題の設定。 ・研修の機会を主体的、積極的に自己学習の場として活用する意義。
16:40～18:10 (90分)	介護従事者に対する労務管理について	労働基準法の規定に基づき、適切な介護従事者の労務管理について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人事・労務管理の重要性。 ・労働基準法に基づいた労務管理。 ・宿直と夜勤について。 ・労働時間と休憩について。 ・労務管理に関する質疑・応答。

2日目/時間	教科名	目的	内容
9:00～10:30 (90分)	地域密着型サービス基準について	適切な事業所運営を図るため、地域密着型サービスの目的や理念を理解する。適切な事業所管理を行うため、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護の各指定基準を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型サービスの目的・地域密着型サービスの種類・特徴・運営基準 ・地域作り ・法令遵守・違反事例について。
10:40～12:10 (90分)	地域密着型サービスの取組みについて	事業所からの実践報告を通じ、各事業のサービス提供のあり方について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所からの報告。 ・現状と課題、展望。
12:10～13:10	昼 休 み		
13:10～18:40 (330分)	適切なサービス提供のあり方について	管理者として、地域密着型サービスとは何か、また介護保険上の基本方針の意味を理解することにより、それぞれの役割や連携について、日常生活の支援等の具体的な場面を通して、その方向性やめざしているものを学ぶ。 加えて、質を確保し向上させていくためには、どうすればいいか、現状及び今後の課題や目標を明らかにし、質の担保を推進していくために必要な統括的な管理運営のあり方について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者の役割 ・業務管理 ・日常生活支援(ケアプランに沿った実践と記録) ・利用者の権利擁護(尊厳・成年後見・身体拘束・虐待防止法等) ・リスクマネジメントの実際とその展開 ・サービス評価・情報公表制度等 ・人材育成の基本的な考え方とその方法 ・現状と課題と今後の展望。
18:40～19:00 (20分)	研修のレビュー(振り返り)	2日間の研修の振り返りを行う。	